

2020/9 (NPO政策研究所・田中逸郎)

公民館の役割、今後のあり方を考える

はじめに：日本の生涯学習の特徴と課題

- 学校教育と切り離されて取り組まれてきた結果…
 - ・ 公民館やカルチャーセンターを中心に展開されてきた
 - ・ その結果、自分らしく生きるために学ぶ場（自己実現や趣味・教養の場）として発展してきたが、社会とのつながり（地域や多世代との連携）が弱い
- 自己実現や自己の教養的向上にとどまりがち…
 - ・ 自分のためにいかされることはあっても、その成果を社会化する視点が弱い
 - ・ 「人＝私」は育っても、「人々＝私たち」が育ちにくい（＝文化資本や社会資本形成につながらない）傾向にある
 - ・ 「社会的な諸課題の克服を視野に入れた生涯学習の推進」という視点が弱い
- 「公民館」は「公共を担う市民を育成する」ためのもの（民主主義の学校）
 - ・ 民主主義の確立と市民主権の社会づくりを目的に設置されたもの
 - ・ したがって、自発的に学ぶという営みを、社会のあり方を考え豊かな生活文化をつくることにつなげていく視点が求められる

1. これからの生涯学習の在り方（公民館の役割）

- 自発的に学ぶことによって「自己実現」することが原点だが…
 - ・ 自発性・自律性が基本。しかし、それは自分に適した学習方法や目標がわからず学習を放棄するケースも多く、結果的に格差を生むという側面もある
 - ・ 自発性・自律性に基づく個人学習は独善に陥ることもあり、社会化する視点や機会がないまま終わることも多い
 - ・ 他者との関係のなかで自己形成するという視点、また、自らの思考や学習を統合し制御する主体形成の視点が重要

公民館の役割 ①

個人的学習だけではなく、集団的自律的学習の機会と場を保障する

- 生涯学習の推進によって「社会的なきすな」を深める
 - ・ 生涯学習の推進によって、「共有された目標を追求するために、より効果的に、しかも一緒に行動することを可能とするネットワーク・規範・信頼感（パットナムの社会資本概念より）」を醸成する。すなわち「社会的なきすな」を深めることが大切
 - ・ 逆に、「社会的なきすな」が深まることで、生涯学習の機会と場、ネットワークも広がる

- ・ 一方、この「社会的なきずな」は往々にして同質性の強化を促し、排他性を強める側面もあることに留意する必要がある。違いを認め合える、誰にも開かれた「なきずな」でなければならない

公民館の役割 ②

みんなに開かれた「社会的なきずな」づくりに貢献する
そのことによって、自己実現の機会も広がる

- 「自己実現」「社会的なきずな」に加え、「つなぐ・つながる」視点が大切
 - ・ 生涯学習の推進によって、人生の充実や成功へのチャンスが広がる。しかし、それは同時に、生涯学習の参加機会がない人（できない人）が取り残される可能性もはらんでいる
 - ・ 生涯学習の推進は、一面では「持てる者と持たざる者とのギャップ」を広げかねない側面があることを忘れてはならない
 - ・ その意味から、世代・性別・職業・階層・民族等、自分と違う立場にある人々を「つなぐ」（ネットワークを広げる）ことによって、より広く多様な人々が生涯学習のテーブルに着く（つながる）ことができるようにすることが必要
 - ・ 社会的に排除される人をつくらない・なくすという目標が大切

公民館の役割 ③

人々をつなぐ、ネットワークを広げる（つながる）
そのことによって「社会包摂」を進める
＜公民館を利用しない（できない）住民にも開かれている公民館をつくる＞

公民館は地域共生社会のプラットフォーム（役割①②③）

学ぶ・つながる・役立つ生涯学習の推進拠点として
学校・社会教育機関・福祉施設、地域や住民活動との連携・協働を図り
地域共生社会づくりに取り組む

2. 求められる公民館像 ～ 学ぶ・つながる・役立つ生涯学習の推進拠点 ～

- 生活文化の情報発信拠点・交流拠点
 - ・ まちの様々な文化活動・地域活動の情報が集まり、誰もがアクセスできること。また自主活動情報が発信できること
 - ・ 気軽に訪れ、団らんや交流ができること（ユニバーサルデザイン）
 - ・ 利用者が自主的・主体的に事業や運営に参画・協働できること

誰もが生涯学習に参加できる館づくり
＜自発的に学ぶ人の輪を広げる＞

● 暮らしに役立つ公民館活動の推進（公民館主催事業の役割）

- ・ 超少子高齢・人口減少社会が進展するなか、急激な社会変動に不安を抱える住民が増加している
- ・ 心豊かな文化にふれる機会を提供し、互いに学び合い交流することで不安をなくし、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する

まちづくり、地域コミュニティの活性化に役立つ生涯学習を推進する
＜住民同士のきずな・つながりを深める＞

● 学習の成果を活かす（公民館育成グループ（登録団体）の役割）

- ・ グループ学習が認められ、一定の支援が得られているのは、その活動に「公共性がある（社会的意義がある）」からということを実感して活動に取り組む
- ・ 活動の成果を、活動に参加しない（できない）人たちに役立てる・還元することは、グループの使命であり、恩返し

学ぶだけで終わらない。人と人とのつながりを大切にし、広げていく
学習の成果が社会に「役立つ」回路を拓く

● みんなで生涯学習を推進する（「学習権」を保障する）

- ・ 生涯学習の推進は、「社会から排除された者」（ヨーロッパ社会政策グリーンペーパー）の学習権を保障し、「社会包摂（ソーシャル・インクルージョン）」に取り組むという「公共課題」（税を投入する根拠はここにある）
- ・ ところが現在、民に任せるものは民に任せという切り捨てや自己責任論の台頭から、住民の階層分断化と社会的排除・貧困が広がっている
- ・ こうした現状を克服できる生涯学習の推進が、今、求められている。これは、行政単独ではもちろんのこと、公民館活動単独でも成しえない。
- ・ みんなのための「学習権」をみんなで保障し合う仕組みが必要であり、公民館はそのための連携の拠点、参画・協働の場としての役割がある

